第２回検討委員会における
防衛大臣冒頭発言（8/27（木））

会議の開催に当たり、一言申し上げます。

第一回の検討委員会でもお伝えしておりますが、国民の皆様の命と平和な暮らしを守り抜くこと。我が国の領土・領海・領空を断固として守り抜くこと。さらに、それらの任務に当たる自衛隊員一人ひとりとその御家族を守り抜くことは私に課された至上命題であると胸に刻んでいます。

この至上命題を全うするためには、防衛省・自衛隊を「世界で最も人を大切にする組織」へと変革していかなければなりません。

これまで、現場の声にも真摯に耳を傾けながら、現職自衛隊員の処遇の改善、生活・勤務環境の改善、そして組織文化改革などを着実に進めてきました。しかしながら、国を守るという崇高な職業を、誇りをもって選び続けてもらうためには、それだけでは十分ではありません。

国を守るという使命を担い、これを全うした退職自衛隊員が、その後もなお誇りを持って安心して人生を歩むことのできる環境を整備することが不可欠です。また、任務の特性上、長期にわたり隊員が家庭を離れることも少なくない中、平素からその任務を支え続けている御家族の皆様が、将来にわたって安心と希望を持って暮らせる環境を整えることも、極めて重要です。

さらに、国民の皆様の御理解と御協力を得ながら、現役時代はもとより退職後においても、自衛隊員とその御家族に対

する感謝と敬意が社会全体に根付くよう、防衛省として積極的に取組を進めていく必要があります。

我が国を取り巻く安全保障環境は、これまでにない速度と複雑性・不透明性を伴って変化しています。退職自衛隊員と隊員の御家族に対する支援を強化することは、現職の自衛隊員の士気向上や人材確保、そして、まさに我が国の防衛力・抑止力の強化に直結するものです。

そのため、防衛省・自衛隊が、現職自衛隊員のみならず、その任務を終えた後も、そして、その歩みを支える御家族の皆様に至るまで、すべての人を大切にする組織であり続けるよう、こうした施策に一元的に取り組む退職自衛隊員・家族支援庁（仮称）を新設したいと思います。これに向けて、令和９年度概算要求に計上することとします。

本日は、目指すべき退職自衛隊員・御家族への支援強化の方向性について、また、概算要求の内容について、積極的にご議論いただけますようお願いします。